



News & View 佐賀大学病院ニュース

— 患者・医療人に選ばれる病院を目指して —

SAGA UNIVERSITY HOSPITAL NEWS



〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号 TEL.0952-31-6511 (代)

病院ホームページ <https://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>



- | 教授就任挨拶 (脳神経内科)
- | 外来受付をリニューアルしました/病院食堂フードファクトリーフレックス、オープンしました
- | 特定行為研修修了者が糖尿病看護外来で活躍しています/看護の日について
- | 病院長賞
- | 日本がん登録協議会第32回学術集会にてプログラム委員長特別賞を受賞
- | 診療科紹介/連携病院紹介

▲新しくなった1階外来受付



教授就任挨拶

2023年4月1日より佐賀大学医学部附属病院脳神経内科に着任いたしました小池春樹と申します。私は愛知県名古屋市の出身で1995年に東北大学医学部を卒業後、名古屋大学で脳神経内科医として勤務していました。

当院脳神経内科は日本神経学会専門医5名を含む9名の医師で診療を行っています。これまで当科の伝統として、スピードが命の脳血管障害（脳梗塞、脳出血）、高齢化社会の象徴である認知症（アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症など）、治療開発が期待される神経難病（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症など）に力を入れてきましたが、さらに私が専門とする末梢神経障害の診療にも注力していきたいと思えます。末梢神経障害については、診察所見、血液・脳脊髄液データ、生理検査、放射線画像検査に神経生検を加え、的確な診断と治療を目指します。

それに加えて広く他施設からの神経組織を受け入れ、病理診断をしていく体制を整えています。当科では神経伝導検査などの神経生理検査



脳神経内科

小池 春樹

経歴

1995年東北大学卒 医学博士
日本内科学会認定医・指導医
日本神経学会専門医・指導医
日本末梢神経学会 理事
日本神経病理学会 理事 認定医・指導医
日本アミロイドーシス学会 理事
日本自律神経学会 評議員

にも力を入れており、より付加価値の高い診療ができると考えています。

当科の対象疾患の特性上、看護師、リハビリスタッフやソーシャルワーカーなどの多職種との情報共有、および地域の病院との連携が不可欠です。地域の皆様のご協力をいただきながら、佐賀の医療によりいっそう貢献できるよう診療体制の充実を目指していきます。

私の出身は名古屋ですが、佐賀大学医学部附属病院脳神経内科に着任してすぐに佐賀県の皆様と土地に魅了されましたので、残りの人生は佐賀大学医学部附属病院脳神経内科と佐賀県の皆様に捧げるつもりでいます。私の責務を全うすべく精進してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



▲脳神経内科の皆さんと

外来受付をリニューアルしました

佐賀大学医学部附属病院では、2023年7月18日に外来受付をリニューアルしました。今回の外来受付リニューアルは附属病院再整備事業（外来診療棟改修）に伴うもので、患者さんの動線や受付での視認等を考え、正面玄関を入ってすぐ左手に移動しており、利便性が大きく向上いたしました。

新しい受付はスタッフの対応する高さが患者さんと同じ目線になるようにスタッフエリアの床面を低くしたほか、一部は低床のカウンターであり、車椅子の患者さんにも配慮した優しいつくりとなっています。

またカウンター面は南向きで、ガラス張りの外壁の先から自然光が燦々と降り注ぐとともに、天井などの部材の一部に木目調を取り入れたことにより、明るさと温かみを持った空間になっていることを実感いただけると思います。

外来受付はリニューアルしましたが、まだ院内の一部は工事途中となっており、来年1月頃に完了する従来の待合位置にて新しくなる待合ロビーの工事と合わせて、受付エリアの整備は完了となる予定です。完成までもうしばらくお待ちいただきますようよろしくお願いいたします。



▲1階 外来受付



▲低床のカウンター

病院食堂フードファクトリーフレックス、オープンしました

株式会社ファクトリー 代表取締役 東島 豊

2023年7月25日にフードファクトリーフレックス佐賀大学医学部附属病院店をオープンしました。

2022年3月26日にフードファクトリーフレックス佐賀駅前店をオープンし、佐賀駅前店では生牡蠣や台湾料理、カレーやスイーツと様々なお食事を提供し、たくさんのお客様に来て頂き、大変好評を頂いております。その経験を活かし、佐賀大学医学部附属病院店では提供するメニューも工夫を凝らし、美味しい料理をスピーディーに、また、安全に提供できるレストランを目指していきたいと思います。

お店のコンセプトは“決めないこと”。店名である「フレックス」の意味の通り、病院で働いていらっしゃる方々、病院にお越しになる方々からのリクエスト等いつも皆様の声に耳を傾け、このレストランを変化、進化させていければと思っています。



●営業時間

平日 11時～20時
(19時半オーダーストップ)
休日 11時～13時半
(13時オーダーストップ)

●おすすめメニュー



チキン南蛮定食 ¥800 (税込)

衣はカリカリ、中はふわっとなチキン南蛮。自家製のタルタルソースを添えて。

●場所

佐賀大学医学部附属病院 外来棟2階



病院正面玄関より入り、まっすぐ進むと左手にエレベーターがあります。エレベーターで2階に上がり、まっすぐお進みください。

※価格、営業時間は2023年9月末時点の情報です

特定行為研修修了者が糖尿病看護外来で活躍しています

特定行為区分「血糖コントロールに係る薬剤の投与関連」のご紹介

糖尿病看護認定看護師/慢性疾患看護専門看護師

総合外来 藤井 純子

特定行為区分「血糖コントロールに係る薬剤の投与関連」とは、医師の指示のもとでインスリンの投与量を調整することをいいます。糖尿病は、人生の中で長く付き合っていく病気であるため、食生活や運動習慣、内服や自己注射など自己管理を継続していくことが大切です。糖尿病看護外来では、看護師が病状や生活状況に合わせて治療を継続できるように療養支援を行います。その中で、特定行為のスキルを活かして在宅での血糖データや面談から低血糖や重度高血糖のリスクを把握し、医師と連携しながらインスリン投与量の調整を行っており、緊急入院となる事態の防止やQOL（生活の質）向上に繋がる支援を行っています。高齢や合併症が進んだ患者さんが安全にインスリンを継続できるように訪問看護との連携も増えており、生活場面や小さな体調変化、季節のイベントに応じたインスリン投与量の相談対応も行っています。病気と共に自分らしく生活を送ることを目指して取り組んでいます。



特定行為研修を修了した
看護師はワッペンを
つけています

特定行為研修修了者
認定看護師

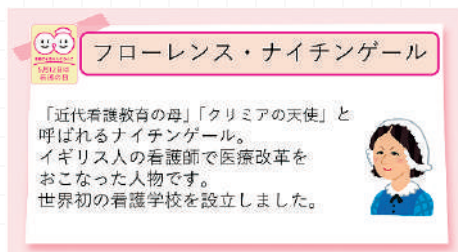
特定行為研修とは…看護師が手順書により診療の補助としての特定行為を行うために必要とされる、臨床判断能力と臨床実践能力を習得するための研修です。

看護の日について

看護部

5月12日は、近代看護教育の母フローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。この日に因んで「看護の日」が制定されました。看護の日を含む約1週間を「看護週間」とし、各地で様々なイベントが開催されています。

当院では今年度から副看護部長が中心に企画し、5月2日よりメディカルサポートセンター付近の再整備ボードを使用したポスター掲示と5月12日に動画モニターによる看護部からの案内を放射線部受付付近で行いました。今年の看護の日のテーマである「いのちをまもるプロとして」に因んでポスターは、「ナイチンゲールの功績」「専門・認定・特定行為研修修了看護師の活動」「地域とつながる入退院支援」を掲示しました。さらに今年度は、入院患者さんにナイチンゲールの功績を掲載した「看護の日カード」を昼食の配膳時に配布しました。看護の日について、部署のスタッフが患者さんの反応を捉えることができる機会となりました。新型コロナウイルス感染拡大の収束を願うとともに、看護の日を通して、患者さんに看護の心を伝えていきたいと思えます。



◀入院患者さんへ昼食時に配布した
【看護の日カード】



病院長賞

Hospital Director's Award



先端医学研究推進支援センター 技術員

中村 光男

中村光男氏は開院当初の1981年に検査部の臨床検査技師として採用後、2013年に病理検査係長、2017年に検査部副臨床検査技師長を務めました。病理検査係長

就任後は、標本作製や細胞診断は勿論のこと、後進の育成や学術に至るまで、病理部検査技師のリーダーとして幅広く業務を牽引しました。病院再整備に伴う病理部移転の際には、移転・拡張計画から機器の設置に至るまで尽力しました。従来の病理部のスペースでは機器の拡張が困難で現在の検体量は到底処理できませんでしたが、手術部と連続した検体処理室の設置により、スムーズな検体提出と効率的な術中迅速業務が可能となりました。さらに、業務量の増加に伴うマンパワー不足の問題にも取り組み、病理部技師の人員増加に繋がりました。

病院長賞とは…当院において、経営に特段の貢献をした者、医療・看護技術等の開発、向上に寄与した者及び患者さんへのサービス等に誠意をもって取り組み、サービスの改善・充実に努めた者に毎年贈られる賞です。



整形外科 准教授

森本 忠嗣

森本忠嗣氏は2017年から2019年まで整形外科医局長として円滑な教育運営に貢献し、2022年度より准教授として整形外科の診療、教育、研究に注力しています。

当院着任後に専門である脊椎外科の診療体制を整え、経年的に紹介患者や手術症例数は増加し、一昨年より年間約300例の手術を実施しています。難治例手術や先進的手術にも実施または指導的立場で関わっています。また、がん診療科、放射線科、リハビリ科と連携し、骨転移関連有害事象を予防する活動で成果を上げており、患者さんの予後や日常生活の動作への影響が大きい脊髄麻痺を予防するための診療に注力しています。さらに、ホログラムやメタバースを使用した手術支援や医学教育を行い、手術の様子はテレビ（全国放送）でも紹介されました。この技術を外科系診療科で使用できるように体制を整え、現在、泌尿器科・呼吸器外科・脳神経外科・産婦人科の若手医師が使用しています。



看護部 看護師長

酒井 宏子

酒井宏子氏は2000年に当院看護師として着任以降、2006年に当院で初めての皮膚・排泄ケア認定看護師を取得しました。

2016年には特定行為研修修了者（創傷関連等）となり、専門外来・病棟等で創傷関連の特定行為を実践しています。

当院が術中麻酔管理領域における特定行為指定研修機関に認定されるにあたり、2020年4月から特定行為研修担当看護師長として、指定機関となるための申請書類の作成・受講生の研修調整・特定行為業務に伴うマニュアルの作成等を行い、2020年10月に研修開講に至りました。当院は特定行為研修協力施設として院内のみならず日本看護協会や久留米大学等からの研修生も受け入れており、酒井氏は研修生との実習調整など他施設からも高い評価を受けています。

日本がん登録協議会第32回学術集会にてプログラム委員長特別賞を受賞

がんセンター院内がん登録室 佐々木 和美



「日本人の2人に1人ががんになる」や「佐賀県は20年ぶりに肝がん死亡率ワースト1を脱した」のような情報を見聞きしたことがあると思います。しかしこのような統計データの算出は皆さんの想像より困難です。例えば〇年のがんの罹患率（粗罹患率）は、〇年に新たにがんと診断された人の数をその年の人口で割れば計算できます。一見簡単に見えますが、「新たにがんと診断された人の数」を正確に把握するのはとても困難です。現在の日本のがん統計は各医療機関から届け出られる「がん登録」データで罹患数を把握しています。そのデータが国の統計データの信頼性を左右します。私たちは、佐賀県から提出されるデータの品質の維持・向上のため、がん登録法が

施行された初年度より、各医療機関のがん登録実務者向けに登録のルールはもちろん、解剖学の基礎やデータ利活用まで研修会とeラーニングによる学習機会の提供を継続してきました。また他の地域の参考となるよう佐賀県の活動を学会で継続的に発表してきました。このような活動を評価いただき、この度、プログラム委員長特別賞を受賞することができました。これを励みに、これからも登録実務に関わる皆さんと共に、がん登録の質の向上に努めてまいりますので、今後ともご協力の程よろしくお願いします。



診療科紹介

[皮膚科]

皮膚科は皮膚に関するあらゆる疾患を扱います。アトピー性皮膚炎やじんま疹などのアレルギー性皮膚疾患や水疱症、膠原病など自己免疫疾患、带状疱疹、蜂窩織炎、壊死性軟部組織感染症などの感染症、乾癬をはじめとした角化症、さらに、悪性黒色腫や有棘細胞癌などの悪性腫瘍等多岐にわたります。他方、皮膚に生じるさまざまな皮疹を通じて、他の臓器が関わる疾患が見つかる手がかりにもなります。

当科では、皮膚疾患全般に対して、幅広い診療を提供しています。さらに、近年増加傾向にある皮膚悪性腫瘍、免疫アレルギー疾患の診療にも力を入れており、特に悪性腫瘍に関しては、皮膚悪性腫瘍指導専門医を配置し、皮膚悪性腫瘍切除および再建、免疫チェックポイント阻害薬や化学療法など最新のエビデンスに基づいた高度な治療も行っています。加えて、皮膚外科領域は、時に他科との境界領域に踏み込む必要があり、院内での連携体制を活かし、適切な治療の提供に努めています。

また、当科では視診だけではなく、血液検査、培養検査、画像検査、皮膚生検なども駆使して、診断の確定や病態の把握にも努めています。特に真菌培養は診療科内でも行っており、専門性の高い診療の提供に寄与しています。当科では皮膚病理組織診断能力の向上を目指しており、適切な診断と病態把握に基づいた確かな皮膚科診療の提供に努めています。

今後、佐賀大学病院皮膚科は地域の医療機関との連携を進め、地域の皆様方に信頼され、安心して当科に受診いただけることを目指しています。



●皮膚科外来日

月	火	水	木	金
手術日	○ (午前)	○ (午前)	乾癬外来のみ 手術日	○ (午前)

※月1回アレルギー専門医による診察あり



連携病院紹介

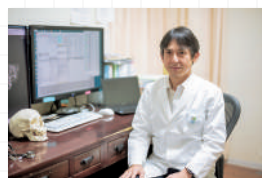
医療法人 まえだ脳神経外科・眼科クリニック

院長 前田 健二

当院は小城市三日月町にある脳神経外科と眼科の無床診療所です。「脳と目のかかりつけ医」をモットーに、手術からは遠ざかっていますが脳神経外科医である私と、眼科医である配偶者との二人で、協力しながら診療にあたっています。

同じ敷地内にいなだ小児科、まなべ消化器内科クリニック、はやしだ耳鼻咽喉科、にしかわ整形外科、こば皮膚科が隣接し、医療モールを形成しています。それぞれの医師が佐賀医科大学の卒業生であることもあって、各診療科と連携しやすく、広い駐車場と敷地内に調剤薬局もあり、患者さんにとっても利便性の高い環境です。

佐賀大学脳神経外科学教室の阿部教授、眼科学教室江内田教授をはじめスタッフの皆さんからは、患者紹介や外来医師派遣など種々の支援を頂いています。脳神経外科ではこちらから紹介するばかりでなく、当日の緊急MRI撮影依頼や大学でのフォロー終了後の紹介なども頂いています。眼科も同様ですが、急患の時間外対応も快く引き受けていただけるため、安心して診療に取り組むことが出来ています。脳神経内科をはじめ循環器内科など関係各科や総合診療部にも、いつもお世話になっています。



お問い合わせ

〒845-0021 佐賀県小城市三日月町長神田2173-2 メディカルモールおぎ内

☎ 0952-72-6101



佐賀大学医学部附属病院

〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号 TEL.0952-31-6511 (代)
病院ホームページ <https://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

発行 佐賀大学医学部附属病院 広報委員会

よろしければ読者アンケートにご協力ください

佐賀大学
病院ニュース
第52号
読者アンケート



アンケートはこちら